研究成果展開事業

COI プログラム　令和４年度加速支援

COI 加速課題　終了報告書

COI 加速課題名称：ウィズ/ポストコロナ社会に適合した新たな文化継承の加速推進～クローン文化財×まちづくりのスマートビジョン～

COI 加速課題代表者（PI）	氏名	宮廻　正明　（みやさこ　まさあき）
	所属機関	国立大学法人　東京芸術大学

２０２３年５月

エグゼクティブサマリー（公開）

1.COI 加速課題の概要

藝大 COI 拠点では、世界的な COVID-19 の影響が続く中、かつての文化共有研究グループ（現テーマ１社会状況への適合を遂げたクローン文化財による心の豊かさの提供）は、日本の文化立国を目指し、クローン文化財の社会実装と企画展の地方巡回有料展示を通じて、活動を持続可能とする体制の実現と文化継承を可能とするグローバル人材の育成を目標に活動を行った。他方、旧文化外交・アートビジネス研究グループ（現テーマ２まちづくりにおけるアート的感性を用いたスマートビジョンと東北震災復興への実装）は、「STEAM 時代のまちづくり」を目標に掲げ、先駆者のケース紹介や自らの実践に根ざした多様な可能性や豊かな発想を提示し、それらを人材教育や街づくりなど社会の在り方の変革に繋げただけでなく、企業や市町村を巻き込み、南三陸町や浪江町、富山市などで地方創生に貢献した。さらに、外部資金の獲得と今までの企業文化にはないアート的視点での新規事業開発を実現し、新しいアート領域において磐石な経済的基盤を築いた。しかし、コロナ禍において目標を成果として結実させてなお、日本のみならず世界がウィズ/ポストコロナ社会への対応を模索する中においては、COI 拠点での目標の達成によって藝大 COI 拠点の目的が完結されたとはまだ言えないであろう。東京藝術大学が COI R4 年度加速課題として掲げた目標は、したがって、ウィズ/ポストコロナ社会への対応を見据え、COI 拠点の目標をさらに発展的に展開するものとした。社会変革に対応できる文化継承の方法としてのクローン文化財と、革新的なシステムと理論を相互に活用した街づくりと人材育成を核とした、地方創生と文化産業へのパラダイムシフトの推進、である。この目標において、COI 拠点でのビジョンは、コロナ禍に余儀なくされた社会変革に対応した地方創生と文化産業へのパラダイムシフトという本課題において、さらなる発展をもって十分な目標の実現を果たすこととなった。

2.COI 加速課題における研究開発成果

テーマ１の瞠目すべき成果の一つは、日本固有の伝統的建築物でもある真宗大谷派東本願寺の飛地境内地庭園「渉成園」の「大玄関」及びそこからつながる「閬風亭」におけるクローン文化財展である。建造物それ自体が通常非公開の文化財である。その建造物の保存状態を確保したまま建物固有の特色を活かし、かつ東西織り交ぜた世界のクローン文化財の魅力を伝えるための効果的な展示を実現した。それは、オリジナル作品では実現できない工夫と技術の結晶によってなされるものである。

テーマ２における成果も多数あるが、中でも東北被災地におけるまちづくりは、今年度最大の成果と言える。宮城県南三陸町などの自治体や機関のみならず、他地域の企業の協力も得て展開された革新的なコロナ禍に呼応した革新的なリーモートアートワークショップは、地域全体のアート計画を進めると共に、子どもたちを対象とした芸術の社会実装を果たすこととなった。さらには、東日本大震災伝承施設「南三陸 311 メモリアル」や被災地ジオラマ製作ワークショップにおける、震災と向き合い学び合うまちづくりを目指して制作した東京藝術大学の作品を展示や、震災への人々の祈りを表現した舞踊の制作は、大震災の経験をアートを通して共有し自然災害の記憶を後世に伝承することに貢献することとなった。

東京藝術大学は、芸術活動に大きな打撃を与えたCOIVD-19を機に、COI加速課題によって芸術表現と芸術の活用の裾野を広げ、新たな芸術の価値を生み出した。本課題による数々の成果は、人々に感動をもたらす作品や提案として提供され続けるという確信を得ている。

3.COI加速課題終了後の展開について

テーマ１において、技術開発によって特許を取得し制作された「もの（物質)」としての「クローン文化財」は現在を再現、時を戻し、制作された当時の状態を再現する「スーパークローン文化財」で過去を復元、制作時に表現したかったと考えられる本質を現代科学技術のもとで創造する「ハイパー文化財」で未来を創造、する新たな文化継承を実現した。加速課題終了後は、株式会社IKI（東京藝術大学発ベンチャー第１号）において、クローン文化財の制作受注の拡大と社会実装による新たな文化継承の推進、国内外政府等との連携による文化外交の推進、国内外からの研修受託による人材育成に取り組んでいく。

テーマ２においては、COI拠点及びCOI R4年度加速課題を通してSTEAMという時代のキーワードに新たな解釈を与え実践してきた街と芸術的行為が同時進行する共時的な基盤形成と、IT技術を利用したネットワーク形成を行うアートシティデベロップメントを継続して手がけ、新たなまちづくりの提案と実現を展開する。また、芸術を支える素材の革新と新素材の開発、芸術を支える人材基盤形成など、企業と共同で行う人材開発も継続して行なっていく。これにより、COI加速課題終了後には、より確実に社会基盤としての芸術のコンセプトとニーズが具体化されることとなろう。また様々なイベントで促進した国際文化交流によるAIやメタバース時代の新しい芸術様式の拡張は今後ますます加速することになるだろう。

東京藝術大学は、COI加速課題終了後も、ウィズ/ポストコロナ社会と文化の共存において残された課題の解決と新たな課題の発見と挑戦とともに、芸術の力による日本の文化立国と国際的な共生社会の実現を目指すべく、不断の努力を続けるだろう。この度の二つのテーマの継続的な連携と、相乗効果による成果として、物質的な豊かさから心の豊かさへ見えないものの継承の方法を生み出し続けることが今後の使命である。